

水稻の白未熟粒発生時期の解明

福島県農業試験場 会津地域研究支場

平成13・14年度福島県農業試験場試験成績概要

1 部門名

水稻－水稻－品質・食味

分類コード 01－01－27170000

2 担当者

松本 靖・齋藤弘文

3 要旨

ポットに株上げした「ひとめぼれ」と「ふくみらい」についてTGC(温度勾配チャンバー)を利用し、出穂後5～10日、10～15日、15～20日の高温が白未熟粒(乳白、心白、背白、腹白、基部未熟)の発生等におよぼす影響を検討した。

- (1) 白未熟粒の主体は乳白粒、心白粒であった。その発生時期は出穂後10～15日の高温による影響が大きく、26℃を境に発生割合が急激に増加した。
- (2) 背白粒は発生に年次間差、品種間差が見られた。平成14年の「ひとめぼれ」では高温処理時期が遅いほど発生が増加する平均温度が低くなった。
- (3) 腹白粒及び基部未熟粒は高温の影響を受けやすい時期については判然としなかった。しかし、いずれも平均気温が上昇するに従って増加傾向を示した。
- (4) 出穂後10～15日の高温処理区では平均気温が高い区ほど千粒重が低下し、玄米タンパク質含有率が増加する傾向が認められた。
- (5) 以上から、白未熟粒の発生は登熟前半の高温により多くなり、その影響が最も高い時期は出穂後10～15日である。同時にこの時期の高温は、玄米千粒重を低下させ、玄米タンパク質含有率を増加させる。

4 その他の資料等

なし